

保育おおさか

平成17年8月1日 第360号

大阪府社会福祉協議会・保育部会
☎ 06-6762-9001 Fax 06-6768-2426

神戸で

近畿ブロック保育研究集会 次世代のために

平成17年度近畿ブロック保育研究集会が、7月14日（木）から15日（金）の2日間の日程で、神戸市の市営地下鉄「みなと元町」駅近くのホテルオークラ神戸で開催された。

研究集会には、近畿一円から880人余りの参加を得て、「地域に広げる子育て支援—保育所がすすめる次世代育成—」をテーマに、2日間の日程が進められた。



「ひまわり」をシンボルとして使用。震災を乗り越え「いのち」と「愛」を子どもたちに伝えたいという想いがこめられている。



地域に広げよう 子育て支援

委員会の寅丸尚恵副委員長からの開会宣言で幕をあげ、主催者を代表して近畿ブロック保育協議会の伊藤義明会長が挨拶され、開催地歓迎の意を込めて、神戸市保育園連盟の黒川恭真理事長が挨拶された。

開会式は終了した。
1日目は、厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課の阿部哲夫保育需給対策官から「保育の動向と課題」と題して、講義がおこなわれた。

少子化の状況から若者の自立・教育、動き方の見直しなどを含めた幅広いプランである、「子ども・子育て応援プラン」の概要説明とその推進策、保育サービスの現状と質の向上、総合施設の現状など、現在直面している課題について説明された。

21世紀のリーダーを

2日目は、元ラグビー日本代表で、現日本ラグビーフットボール協会の普及育成委員である大八木淳史氏による記念講演がおこなわれた。

「勇気の中に」と題しておこなわれた講演は、恩師との出会い（様々な邂逅）



大八木淳史さん

から、これまでに至る体験談を中心に話され、熱き想いを感じることができた。最後に、「雰囲気になれない21世紀のリーダーを育ててほしい」と激励の言葉で講演をしめくくられた。最後に次期開催地である和歌山県保育所連合会によるアピールと挨拶のあと、神戸市保育園連盟の阿曾恭子副理事長が閉会の挨拶をされ、全日程を終了した。

（玉川橋保育園 M・K）
（分科会は2面）



夏になれば必ずカキ氷が食べたくなる。フラッペというような豪華なものじゃなく、ただ、赤い色がついていたり、ガラスの器に山盛りのカキ氷、スプーンが刺さっていて、いつもどうやって氷を落とさずにスプーンを抜こうかといういろいろやってみるけど、結局、氷が少し落ちてしまう。残念。

それがいつからか、発砲スチロールのカップに変わり、縦縞のストローがついている。あのふわふわのカキ氷から、ガリガリのカキ氷に変身してしまった。いつかふわふわをもう一度、と思いつつなかなか出会えない。

京都の高台寺の入口に一番近い露店やさん。久しぶりのカキ氷。いつものカップといつもものストロー。また、と思いつつ、口に入るとふわっと綿あめみたに溶けていく。やったあ。喜ぶ私を見て、「子どもみたいに単純」と呆れかえられた。だって、年をとると子どもに帰るっていうでしょ。

（Y・K）

分科会報告

大阪は第1分科会と第5分科会で発題を担当した。主題である「広げよう子育て支援」のもとに、実践例に基づいた研究報告がなされた。各分科会とも質疑応答の時間では情報交換などで盛り上がりを見せ、盛況なものとなった。

第1分科会 保護者の 多様なニーズに 応える取り組み

高槻市の芝谷聖ヶ丘保育園、千崎祥子さんから実践例に基づき事例報告がなされた。



千崎祥子さん

病後児保育は 安心・安らぎの場

子どもが病気のとき、親は気兼ねすることなく看病したいの思いがあるが、親の仕事の都合で、どうしても休めない場合もある。一方、子どもの立場からみると、子どもが病気のと

きさらさらに大きな援助が必要となる。
疾病や病状に応じて、専

第5分科会 0歳児の現状と 保育・子育て 支援のあり方

第5分科会では、南海愛児園の佐藤春子さんが、園においておこなったアンケートをもとに「食」についての報告をされた。

家族の抱える さまざまな問題

保護者の就労形態の多様化で、近くに住む祖父母が毎日送迎したり、朝、夕食、入浴など生活面において協



佐藤春子さん

力している家庭も多い。

また、核家族、一人親家庭も多くなる中、親の育児不安やストレス、時間に追われる日々など育児と就労の両立の厳しさを訴える保護者も増えてきている。

園児においても、「食」について、肥満、極度の偏食、噛めない、早食い、自分で食べようとしない、朝食の欠食、怒りっぽい、落

としては、なじみのない保育園へ預けることの不安や、園から遠いこと、また、利用料+医師連絡票にかかる費用も、利用を見送らせる原因と考えられる。さらに、①前日予約したが夜に熱が下がった、②他の人に見てもらえる、③熱が高くなった、などの理由も挙げられる。

門的な看護ができる看護師と保育の知識や技能を持った保育士とによって、病後児保育は「親の安心」と「子どもの安らぎ」を得られる場と考えたと述べられた。

考察と今後の課題

利用したい願いは多いが、実際の利用は少ない。理由

今後の課題としては、利用にあたっては医師の判断に委ねられるため、回復期の判断が多少異なることがあげられる。

助言者から…

助言者である梅花女子大学の山野則子助教は、延長保育・休日保育・病後児保育など親の多様なニーズに応えていくというメニューについては、「子育てを肩

「食」についてのアンケート

ち着きがない、食物アレルギーなど、さまざまな問題を抱えている。

各家庭により、育児方針、生活習慣などが違う0歳に

とって重要な「遊ぶ」「寝る」「食べる」の3本柱の中で最も大切と思われる「食べる」について、栄養士、保健師にも協力しても

らい研究し、現状を把握し「食」に対する意欲や意義を高めるため、各家庭にアンケート(内容、家庭での食事、おやつ摂取状態、

代わりしているのでは？」と疑問をもちながら対応している先生方がたくさんおられ、それが現場の実態ではないのかと話された。

その上で、現在の子育て像の実態を確認することが大切であり、保育園にしかできない役割がある。親も子どもも育つ保育園。親の不適切な子どもの養育や育児不安を解消することができるとも保育園である。子どものも安心や願いを大切にするために、病後児保育は必要である、と結ばれた。(摂津さつき保育園 M・H)

助言者から…

最後に、助言者である滋賀女子短期大学の古橋紗人子講師は、育児相談では、0・1歳の食事の悩みが多いこと、空腹感をしっかりと感知すると食事が食べられることを話された。また、保育園で、0歳の成長の喜びをお父さん、お母さんから取っていないだろうか？と提起され、園で先にできるようになったら、保護者へどう伝えるか、保護者への保育援助の重要性についても強調された。

参加者の真剣なまなざしが印象に残る分科会となった。

(東羽衣保育園 R・M)



隣の部屋から聞こえてくる



泣き声・笑い声・歌声を心地よく感じて欲しい。また、給食室も1階にある。ただ完成した給食が出てくるのではなく、作ってくれる人、働く人が見えて人への感謝を育み、美味しいにおいがただよって幸せを感じて欲しい。

四季折々の水田の様子と京阪電車が見えるウッドデッキ。稲穂の上を流れる快い

そして、それぞれを美味しいとは思いますが、微妙な不満と共に「おふくろのカレー」を思い出します。

その大きなジャガイモが入り、トロ味が強くキツネ色の「おふくろカレー」に先日、講演で行った片田舎の駅前の食堂で再会し、涙がでるほど感激しました。

美味しさも見た目も、正直に言えば、BクラスあるいはCクラスかも知れませんが、「なつかしさ」というスパイスが、わたしの舌を喜ばせるのです。

ス・プレゼントも母親の手作りのほとんどない現在。
子どもは、何によって母親の愛情を感じているのでしょうか。また、その子どもたちが大人になったとき、母親をどのように思い出すのでしょうか。

何かを買ってくれたとい

たのが、今ではインスタント食品を電子レンジで温めてからという意味に変わってしまった現在。

特に、自分で「チン」してひとりで食べている「孤食児」と言われる子どもたちのさびしさ・味気無さ・孤独・不安・不満…。

ですからわたしは、子どもを非行に走らせたくなければ、お母さんの手料理を家族で食べる習慣をつけることが、一番確実な方法だと常々言っているのです。

確かに、現在は、お母さんも忙しく、昔のように家事や炊事にそれほど時間を

心に通じる道は胃袋を通る

すると同時に、作ってくれた人の愛情も、素直に吸収するものなのです。

う物質的な喜び以外は、いつもガミガミと怒ってるばかりの母親だったというこ

■本来、食事というものは、楽しいリラックスした会話をしながら、家族全員で母親の手料理を食べるのが大原則です。

いいお皿に盛り直すとか、
ケチャップやマヨネーズで
楽しいトッピングをすると
かして、お母さんの愛情と
いうソースを料理に加えて

ろの味」がなくなり「フク
口の味」になってしまった
と言われる現在。

■また、昔であれば、「チンしてからよ」というコトバは、仏壇にお供えしてか

それにより、栄養ばかりではなく、家族のきずなと母親の愛情を自然と感じ取り、子どもたちは精神的に安定するのです。

あげる工夫とひと手間、それに加えて、食事中の楽しい会話が、どれだけ子どもを喜ばせるかを考えてほしいのです。

(英)

- 中央情勢について
- ソフト交付金と保育対策促進事業について
府庁児童家庭室施設課からご説明いただきました。
- 保育部会の研修計画について
- 第三者評価事業について
- よい子ネットについて
- 保育海外研修について
- その他



ブロックだより

リフレッシュ
伝統・自然を感じて
高山と愛・地球博

南大阪ブロック保育士研修会

南大阪ブロックの保育士研修会が6月26・27日の2日間、飛騨高山と「愛・地球博」でおこなわれました。1日目は高山市内の古い町並みを散策したり、江戸時代から続く高山祭の屋台を展示している高山屋台会館を見学したりと、伝統的な日本の景色に接することができ



ワンダーサーカス電力館で

ました。優雅な装飾がほどこされた屋台を見ていると、高山祭に行つて町で曳かれる屋台を是非見てみたいという気持ちになりました。2日目の愛・地球博では、まず人の多さに驚かされました。しかし、技術を駆使して建てられている美しい

建物や壮大な自然を見てみると、入場までの長い待ち時間の疲れも忘れてしまうほどでした。さまざまなイベントやパビリオンから、地球に優しい、未来のことを考えてつくられた技術や自然を感じることができ、保育を通して自然の大切さを伝えていくことができたと感じる研修となりました。

(大野台保育園 K・K)

表現力・感情
ゆたかに河内ブロック・東大阪
リトミック研修会

みんなで楽しくリトミック

東大阪市立保育会は、保育実践力を高めるために、7月12日(火)、若宮保育園でリトミック研修を開催した。

今回の研修には、25園、27人が参加。坂上典子先生のもと、数多くのリトミックをおこなった。子どもたちが「リトミックは楽しい。もっとやりたい」と思い、自然とリズムが身につくように工夫されている。

「お散歩」というリトミックは、音楽に合わせて動き、音楽の変化(音楽・リズムの変化)を聞き取り、あらかじめ決められた動作で行動表現するもので、実際やってみると、動作は簡単だが合図の種類が増えるにつれ、とても難しく、音の変化をしっかりと聞いておかないと

この「保育おおさか」の人氣記事の一つ、「落語医者のうだうだ話」は、いよいよ今年の10月号で終了となります。今年の3月号でもご案内しました。昭和60年8月号から今日まで実に21年という永きにわたり執筆いただいた、かしわ保育園園長で小児精神科医師の北畑英樹さんの公務がますます繁忙を極めてきたからです。時には、保



育現場で困ったときの解決策となるヒントや、保育士、園長の心を和ませて頂いた、本場に「ため」になる記事でした。この記事の後にどのような記事載せていくかということも大きな課題です。編集委員全員で検討中ですが、皆様のご意見も期待您的ところ。ご意見ありましたら、事務局(メールアドレス: hoiku@osakafusyakyo.or.jp)までお願いします。

保育園をたずねて

330

高槻市

梶原ピッコロ保育園

高槻市の東、名神梶原トンネルのある梶原山のふもとに、四季折々の自然に囲まれて、ひっそりと建つ60人定員の小さな保育園、梶原ピッコロ保育園があります。

保育園の菜園で育てた野菜



真剣な顔で…カボチャをくりぬく

を中心に、夕食のバーベキューとサラダ、朝食の味噌汁とお漬物を調理して、いただきました。

普段の保育でも、菜園で育てた野菜や穀物・豆などを使って、子どもたちと調理員と保育士が一緒になつてクッキングを楽しんでいます。

おかげで、子どもたちは野菜の食はず嫌いもなく、すくすくと育っています。

発行所
大阪市中央区中寺1丁目1-54
大阪府社会福祉協議会
保育部会
TEL (06) 6762-9001
発行人 男 勝
編集人 永 水

(むぎの穂保育園 M・K)
間違ってしまう。話だけ聞く研修とは違い、実際に体を動かし体験することで、子どもの立場に立つことができ、有意義であった。保育者自身がリトミックを楽しみ感じ、子どもたちと楽しくすることで、表現力や感情が豊かに育っていくことを感じた研修であった。